

(別添4)

【長瀬町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

GIGAスクール構想のもと、1人1台端末と高速通信ネットワークを活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立を目指す。AIドリルやオンライン教材、クラウドを活用した共同編集やオンラインディスカッションを取り入れ、一人ひとりの習熟度に応じた学習を支援するとともに、意見交換や共同作業の機会を増やすことにより、児童生徒が自ら学び、考え、表現し、他者と協力して新たな価値を創造できる力を育む。

また、学びの保障のため、不登校児童生徒へのオンライン学習環境を整備し、家庭学習を支援する。

2. GIGA第1期の総括

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とし、令和2年度に1人1台端末と高速通信ネットワークの整備を実施したことにより、クラウドを活用した共同作業による協働的な学びが可能となった一方で、学校間や学年、クラス間で平時の授業におけるICT活用や端末の持ち帰り学習への取り組みに差が生じている。

原因としては様々な要因が考えられている。一つ目に、児童生徒及び教員のICTスキルには個人差があり、特に低学年では基本操作の習得に時間を要するため、段階的なICTリテラシー教育が求められる。二つ目に、端末の利活用を促進していくにあたり、故障時の対応がより重要となるが、予備機の台数確保や修理費用の負担方法について検討していく必要がある。三つ目に、平時の授業において、一部の教室で1人1台端末を活用したネットワークへの接続が円滑に出来ないケースが生じており、ネットワークアセスメントの実施やその結果を踏まえたネットワーク環境の改善が必要である。四つ目に、セキュリティ対策や情報モラル教育の強化についても重要な課題となっており、定期的な研修や家庭向けの啓発活動を実施していく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

十分な予備機の確保を含め、適切な端末の整備・更新により、1人1台端末環境を引き続き維持することを前提に、すべての児童生徒にとって質の高い学びの機会を提供するために、以下の3つの観点から利活用を推進する。

(1) 1人1台端末の積極的活用

すべての児童生徒及び教員がICTを効果的に活用できるよう、定期的にICT研修を実施し、実践的なスキル向上を図る。また、ICT支援員を配置し、教員の負担

軽減と活用促進を支援する。授業における端末活用を定着させ、すべての学校で週3回以上の活用を目指し、授業の質の向上を図る。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

児童生徒が主体的に学ぶ環境を整備するため、調べ学習において週3回以上端末を活用することを目安とし、自分の考えをまとめ、発表・表現する活動においても活用機会を増やすことで、教職員とのやりとり、児童生徒同士の協働学習において、双方向のコミュニケーションが活発に行われる環境を構築する。また、児童生徒が自分の特性や学習進度に応じた学習を進められるよう、AIドリルを導入し、個別最適な学びの充実をはかる。

(3) 学びの保障

誰一人取り残さない学びの保障に向けて、すべての不登校児童生徒が希望すれば授業配信を受けられる体制を整備する。教育相談のオンライン化を進め、希望する児童生徒に対し1人1台端末を活用した支援を提供する。外国人児童生徒への学習支援では、多言語翻訳ツールを活用し、円滑な理解を促す。障害のある児童生徒や病气療養児等に対しては、音声入力や拡大表示などの支援機能を活用し、学びの機会を確保する。

これらの方策を通じて、GIGAスクール構想の目標達成を図り、児童生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育環境を実現する。